

レポーター：福岡市博物館は、福岡タワーと福岡 Yahoo ドームのあるシーサイドももちにあります。1990年に福岡の歴史と民族から文化発展の足跡を学ぶことができる博物館として開館しました。アジアとの交流を通して発展してきた福岡の歴史や人々の暮らしぶりを紹介しており、国宝「金印」や民謡黒田節に歌われた名槍・日本号、今でも動く国産車では最古の自動車アロー号など、福岡にゆかりの深い文化財を常時展示しています。

レポーター：学芸員の池田さんです。

学芸員：よろしくお願いします。

レポーター：教科書で見たことのある金印を初めて見たんですけど、思ったより小さいんですね。

学芸員：そうですね、みなさんそう言われるんですけども、大きさが、約2.35センチ。重さが約108グラムです。

レポーター：ふうーん。

学芸員：で、この2.35センチというのが、中国の漢からもらったものなんですけど、当時の漢代の一寸にあたります。

レポーター：ふうーん。

学芸員：で、現在では、10円玉の直径とほとんど同じ大きさですので、みなさんそれで想像してみてください。

レポーター：純金なんですか。

学芸員：約95.1%が金で、4.5%が銀です。それと銅からできた合金です。

レポーター：お砂糖より金って高価なものですよ。

学芸員：そうですね。中国でもこういった印章がつけられるんですけど、金と銀と銅、やはり銅が一番多くて、金は位の高い人にあげていました。ただもう一つ上があるんですよ。

レポーター：何ですか。

学芸員：それは玉。

レポーター：玉？

学芸員：皇帝とか、お妃さまとか、そういった一番位の高い方には玉の印鑑が与えられました。

レポーター：実際、文字とかなんて書いてあるんですか。

学芸員：5つの文字からなっていて、今一番有力なのが、漢、委、奴、国、王の5つの文字からなっています。

レポーター：どういった意味があるんですか。

学芸員：最初の漢はですね、この印鑑を与えた当時の中国の国の名前です。次の委って書

いてあるのは、にんべんを省略しているんじゃないかという風に考えられていまして、倭国、日本のことを意味します。次の奴というのは、福岡平野に当時あったと考えられている奴国、部族名みたいなものと考えられていて、国王というのは位の名前ですね、そういったものを中国から認められたというということで印章をもらったということですね。

レポーター：上のつまみの部分はどういった？

学芸員：つまみはチュウというふうによんでいるんですが。

レポーター：チュウ？

学芸員：発見した当時から、蛇がとぐろを巻いた状態じゃないかと考えられています。いろんな形のチュウがあるんですけども、蛇はどちらかというと南の方の民族に与えられたんじゃないかと考えられてます。

レポーター：どこで発掘されたんですか。

学芸員：それが今から200年前に、志賀島に偶然みつかったものなんです。当時の2月ですけれども、今の季節でいえば、春、4月ぐらいになるんですが、田んぼでしょうかね、作業中に2人がかりでおっきな石が邪魔だったので、どけたそうです。そしたら、金色の光るものがあって、それが金印だったということです。

レポーター：見つけた人はびっくりしたでしょうね。

学芸員：したでしょうね。

レポーター：博物館の中ではいつでも見られるんでしょうか。

学芸員：特別に貸し出していることがない限りいつでも見ることができますので、いつでも見に来てください。